パートナー情報誌

香　澄

第 11 号

発行日：2009 年 10 月 1 日
発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部会
編集員：浅野明宏、有吉潔、　稲葉寛、　大島寿夫
尾形孝彦、栗原知彦、中村利夫、平江俊之、
安川敏行、深澤幸義、軽部達夫、中原清人

「パートナー企画・広報委員会」が設立されました

「パートナー企画・広報委員会」設立の背景

センターパートナー活動は、センターの４つの機能のうちの１つである「市民活動との連携・支援」という役割を担う事業です。

そのため、センターパートナー活動の究極的な目標は「①霞ケ浦流域で活動する高校生・大学生、学校教諭、新興市民団体、その他の環境問題に関心のある一般市民の皆さんに、霞ケ浦環境科学センターのパートナー活動に参加してもらうことによって、霞ケ浦をはじめとする水環境に関する知識、水質分析や魚類・植物の定点観察の方法、環境啓発イベントの企画・運営、広報誌の作成方法等を修得してもらうこと」、そして最終的には「②その身につけた知識や経験を、各自が住んでいる地域や職場、市民団体活動での環境保全実践活動に還元してもらうこと」の２つに収斂されると考えられます。

しかしながら、センターパートナー活動は、この 4 年間の活動を通して、ようやく目標①の半ばまで到達したところ、というのが冷静な現状認識だと思います。

センター設立５年目の節目を迎えるにあたって、今後のパートナー活動を展望すると、目標①を達成し、目標②に向けて邁進していくためには、各グループ活動の目標や活動体制を精査するとともに、グループの枠を超えて有志を募り、パートナーによる活動内容の提言、環境啓発イベントや研修会、交流会の企画・運営、広報誌を通じた情報の発信等に取り組む専門組織（「パートナー企画・広報委員会」）を設立することで、より一層のパートナー活動の活性化を図っていくことが求められていると思われます。

こうした認識に基づいて、去る７月２日に「パートナー企画・広報委員会」の企画部門である「企画部会」が、７月３日に広報部門である「パートナー情報誌「香澄」編集部会」が立ち上げられました。　　（センター　中原）

パートナー企画部会が立ち上がりました

この度、ご案内のように企画部会が発足しましたのでご紹介します。メンバーは、センター職員３名と広くパートナーの皆さんに呼びかけ応募されました８名のパートナー有志が集まり、平成 21 年７月２日に立ち上がりました。

少し硬い名称かと思いますが、我々パートナーが楽しく充実した活動を少し長いスパンで考えながら活動の充実、活性化策を一緒に検討してゆく集まりです。

各企画委員は、各グループから提言された内容を検討し見極め、実際のパートナー活動に反映されるよう、所属グループの枠を超え、センター職員とその実現のために活動します。

“ 自由に発言する！”
“ やれることから始める！”
“ やれそうもないことも考えてみる！”
“ ともに考える場！”

をスローガンに活動を進めて行きますので宜しくお願い致します。

なお、企画部会の活動状況は「パートナー企画部会通信」にてご覧頂けます。

（企画部会長　尾形）

「香澄」編集部会の発足にあたって

「パートナー香澄」は 2007 年４月に第１号が発行され、今回 11 号目の発行になります。当初は編集委員からの寄稿が殆どでしたが最近ではパートナーの皆さんからの投稿も増え内容も次第に充実して参りました。

今般、パートナー活動の更なる発展をはかるため「パートナー企画・広報委員会」の立ち上げが提案され、その中の編集部会が「パートナー香澄」を引き継ぎ「パートナー情報誌　香澄」として発行して行くことになりました。

「香澄」発行の狙いは“各グループの枠を超え情報を共有・交換し合うことによりパートナーの一体感・横断的活動の促進に役立てる情報誌”を目指すことにあると考えます。

そこで、“企画部会を含めてパートナー全体として、また、各グループが今どんな活動を計画・実施しているのか、あるいは、その結果はどうなのか”などをお伝えしてゆくことを当面の目標とします。併せて、パートナーの皆様から活動体験記、ご自身のプロフィールや趣味、身近な出来事や思っていることなどをエッセイとして、また、俳句・川柳・写真・イラストなどを自由に寄稿いただき掲載することにより楽しく読める紙面作りにも努めたいと思います。

パートナーの皆様のご協力があって発行できる「香澄」です。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

（編集部会長　安川）

各　グループの活　動　報　告

2009 年 4～8 月の活動記録を中心とした各グループの活動概況です。
企画部会と各グループで活動実績の整理・発表の方法について検討されておりますので、今後も定期的に掲載してゆきます。

研　修　グ　ル　ー　プ

研修グループ活動も 5 年目を迎えました。この間数多くの小学生、一般者の研修を担当職員およびグループメンバーのご協力を得、滞りなく実践して参りました。

特に、平成 21 年度に研修グループに入られた皆さんの積極的な活動は大変心強く感謝する次第です。更に、新しく研修担当になられました稲田さん・宮本さん両氏のアグレッシュブな業務遂行に敬意を表します。

さて、研修グループ活動内容につきましては既にご承知だと思いますが、小学生を対象にした研修において、センターならではの薬品を使用しての実験では事故発生などの危険が伴い、我々メンバーが非常に神経を使うところであります。

従いまして、担当職員主導の勉強会開催による知識修得や補佐業務の訓練等スキル up を目指してきました。幸いにも設立当初から現在まで無事故で進めてきております。

一昨年 7 月から安全性の優先確保を相互に認識しあい、継続的な安全確保に向けて「研修室及び生物学習室における安全管理マニュアル」の作成をグループ内で議論検討し（案）を作成しました。その後、平成 21 年 5 月に読み合わせ、見直しを行い平成 21 年 8 月に“茨城県霞ケ浦環境科学センター　研修グループ”として正式に発行され、永続的な安全研修を目指し、現在運用しております。

完成した安全管理マニュアル

（研修グループリーダー　尾形）

植　物　グ　ル　ー　プ

植物グループの活動は、年間 10 回の野外活動に於ける運営補助（観察補助、記録、写真撮影、参加者保安、ゴミ拾い等）と、各月第 4 水曜日センター南湖岸での定点観察活動（同定、観察記録、写真撮影等）です。

当期の野外講座は、春、夏の湖岸植物観察（4，７月）、流域の自然（植物）観察と周辺の歴史・地理の学習（5、6、8 月）が実施され延べ 58 名のパートナーが参加しました。

定点観察活動は湖面植生地に生える植物３０種（基本２２種、関連８種）を３組の班編成で観察同定し記録しました。新しい発見もあり、変化に富んだ観察ができました。各班調査区の観察状況は次の通りです。

[A 区]　国交省の自然再生事業で行われた地形改造によりミコシガヤやウキヤガラの間に絶滅危惧種のジョウロウスゲやミズアオイの点在発生が見られた他、新出種として「サジオモダカ」の点在が発見（尾形氏）されました。

[E,F 区]　ハンゲショウやイヌドクサの見事な群生が見られました。

[G,H 区]　絶滅危惧種のノウルシやジョウロウスゲの点在の他、群生したミクリの開花、結実が見事でした。
また、４月、H区で本県では珍しい「ヤナギトラノオ」の群生が新たに発見されました。（腰塚氏同定）
ヤナギトラノオ（サクラソウ科）は通常寒冷地の湿地に生育し、氷河期遺存種ともいえる希少な多年草です。尾瀬や福島県南部の高層湿原で見られ、花期は６月上旬から７月とされています。なぜ、霞ケ浦湖岸にあり開花は５月上旬と早いのか？今後の継続的な観察が必要です。

（植物グループリーダー　有吉）

ヤナギトラノオの群生（2009－5 月上旬）

ヤナギトラノオの花

ヤナギトラノオの実（2009－6 月上旬）

魚　グ　ル　ー　プ

①定　点　調　査：　土浦市田村地先からかすみがうら市川尻地先の霞ケ浦に７定点をもうけ、原則毎月第２土曜日に投網による魚類採取及び水質の調査を行っています。
　4～8 月の間に５回行い延べ 31 名のパートナーが参加しています。

②自 然 観 察 会：　一般県民を対象にほぼ月一回、霞ケ浦の自然に接し、霞ケ浦と親しんでもらう事で、現状認識を深めてもらうため投網による魚類採取や漁業者の活動視察、昆虫観察、鳥類観察などをおこなっており、パートナーはその運営補助を行っています。

実施月日	内　　容	参加パートナー数
4 月 25 日	フナのっこみ観察： 当日は雨天のため研修室で講話及び卵とウロコの観察	12 名
5 月 23 日	自然再生 A 地点北池において魚類採取と観察	9 名
8 月 1 日	センター内及び周辺で昆虫観察	7 名
8 月 9 日	投網教室： 自然再生 A 地点北池で投網の実習と魚類観察	8 名

③センター行事補助：　5 月 5 日の子供環境フェスタ及び 8 月 22 日のセンター夏まつりにおいて関連催し物とし、投網教室（一般来場者に投網の投げ方を教授）の運営を行った。参加パートナー夫々3 名。

（魚グループ　センター中村）

イベント・記録グループ

イベント・記録グループの活動は環境科学センター主催の行事などの運営補助活動（受付、参加者誘導、写真撮影など）を行っています。

No	実施日	テーマ（No.2~6 は霞ケ浦入門講座）	会場／訪問先
1	7 月 20 日	泳げる霞ケ浦市民フェスティバル	霞ケ浦総合公園
2	4 月 28 日	鹿島の下水道と神之池の歴史	茨城県鹿島下水道事務所
3	5 月 29 日	利根川の水利用と両総用水	千葉県香取市、両総用水第一機場・利根川桶門
4	6 月 25 日	小貝川・豊田堰ー霞ケ浦との接点を訪問	龍ヶ崎豊田町　国土交通省豊田堰管理所
5	7 月 28 日	安全でおいしい水づくり	水質管理センター、阿見浄水場
6	8 月 27 日	微生物・植物の作用で水環境再生	国立環境バイオエコエンジニアリング研究施設

次回は、10 月 18 日には「水生植物とのふれあい事業」が環境科学センター自然再生地区で予定されています。

（イベント・記録グループリーダー　栗原）

図　書　グ　ル　ー　プ

図書グループのメンバーは総勢 23 名で、いつも 5～6 名が参加し、火曜日と金曜日の 2 階交流サロンの利用可能日に活動を行っています。

＜全員参加活動＞

■文献資料室の蔵書の紹介

文献資料室にある本を多くの人に読んでいただき、環境への関心を深めてもらう目的で、メンバー各自が関心のある本を選び、その紹介文を作成しています。

■環境紙芝居の作成

今期後半から活動予定。今後の取り進め方についてグループ内で議論をしていきます。

■アクリルタワシ作成指導への協力

交流サロン主催の定期的に開催されるアクリルタワシ教室（1 回／月）やセンターイベント開催時にアクリルタワシ作りの作成指導への協力を行っています。

＜希望者による活動＞

■「テーマ別新聞切り抜き綴り」の作成

関心のある問題をテーマに各自設定して、新聞記事の収集を行い、ひとつの情報として取りまとめています。現在 5～6 人の人達が活動中です。

■読み聞かせの活動

センター来館者（主にこども）を対象に絵本等の読み聞かせを行います。活動日に事前練習を行い、その成果をセンターイベント開催時に発表しています。現在 6 人の人達が活動中です。

（図書グループ　平江）

図書グループ読み聞かせ同好会のネーミング決まる

「センターこどもまつり」や「センター夏まつり」などでおなじみの“読み聞かせ同好会”のネーミングが**［おはなし　水あおいの会］**と決まりました。

ミズアオイ（水葵）は全国各地の池沼、水田の溝などに群生する１年草で、全草無毛、花期は９月～10 月。霞ケ浦周辺では、湖岸や休耕田でまれに見られる環境省の絶滅危惧種Ⅱ類、茨城県の危急種に指定されている植物です。

和名の語源は葉形が「葵」に似ることに由来します。

［おはなし　水あおいの会］も植物の「ミズアオイ（水葵）」同様、絶滅しないよう頑張ります。

定例練習兼実演日は毎月第４日曜日の午前 10 時 30 分～11 時 30 分です。

（読み聞かせ担当　浅野）

ミズアオイ（水葵）

センター夏まつり２００９

８月 22 日に“霞ケ浦環境科学センター夏まつり２００９”が開催され総来場者数６,９００人と盛況に無事終了しました。パートナーの方々には総勢３６名参加いただき各業務補助としてご活躍いただきました。

参加されたパートナーの方々の“ひとこと”をいくつかを紹介します。

今年で３年目を迎える「おもしろ科学教室」ですが、本年は少し出し物を変えて開催されました。研修室では、塩ビパイプとスズランテープを使い静電気による不思議体験、食塩に浸した備長炭とキッチンペーパー、アルミホイルを使用した電池づくり、また、ロケット型ペットボトルとアルコールロケット発射実験、そして最後に全員で手作りスライムに挑戦しました。

大人も子供も一緒になり真剣に取組む姿は感激ものでした。参加した皆さんも久々に時間を忘れて楽しくすごせたと喜んで頂きました。（尾形）

初めての出し物として、小中学生を対象にミジンコ等のプランクトンのプレパラート作り、観察を行いました。

自分で作ったプレパラートを顕微鏡で観察して感激したり、本間先生によるプランクトンの話に熱心に聞き入ったりして、プランクトンと触れ合うことができました。

この体験を通して、今まで以上にプランクトンや環境に関心を持ってもらえたことと思います。（稲田）

大変な大盛況！！　お母さんとお子さんのペアーが圧倒的に多く、小さな指を動かしながらタワシ作りに挑戦し、完成したときの嬉しそうな目の輝きは大変印象的である。このアクリルタワシが霞ケ浦の水質浄化に少しでも役に立つよう願っています。（平江）

お知らせ

■　「パートナー全体研修・交流会」の開催が 11 月下旬に予定されています。詳細が決まり次第、別途案内されますので多数のご参加をお願いします。

■　イベント・記録グループでは昨年度に引き続き本年度も「霞ケ浦環境フォトコンテスト」の実施を計画しております。別途案内される募集要項にしたがい多数の応募をお願いいたします。

「パートナー情報誌　香澄」の原稿募集

「香澄」はパートナーの皆様と一緒に作る情報誌です。常時募集しておりますので是非原稿をお寄せ下さい。

特に、テーマは設けません。パートナーご自身のプロフィールやセンターでの活動体験記、身の回りの話題、また、俳句・川柳・写真など何でも結構です。パートナー室の“香澄メールボックス”にお入れ下さい。

［編集後記］

企画部会・編集部会（パートナー企画・広報委員会）の立ち上げに併せて、パートナーの活動概要を出来るだけ多く掲載しましたが、その結果エッセイなど寄稿原稿が掲載できなくなってしまいました。次号には掲載したいと思いますのでご容赦ください。